

# 5月 VOL.112

# みちしるべ

~Run to the FUTURE~

全国のみんなこんにちは!!



春風を渡る風が、さわやかな季節を運んでくれるような気がいたします。みなさんいかがお過ごしですか。

しかし世間はいげんとしてコロナウィルスが広がり、落ち着かない毎日を送っていることでしょうか。そんな中で学習計画を立てて、一定のリズムで勉強することを心がけてもらいたいです。何をやったらよいか分からなくなったら塾に行って相談をしましょう。「ローマは一日にして成らず」と言います。自分の将来へ向けて一歩一歩前進していきましょう。

## 成績UP!



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの学校が休校になりました。

例年なら多くの中学校では、あと2、3週間のうちで中間テストがあったはずですが、今年は期末までテストはないでしょうね。学校の授業がなくても勉強は続きます。成績を上げるために大切なことを再確認しておきましょう。

## 点数を上げる勉強のコツ①

単語や漢字を覚える

数学でもテストで用語を書かせる問題もけっこうありますが、用語や単語、漢字は、覚えれば点になります。点にならないのは、覚えきっていないからです。

では、覚えきるにはどうすればいいのでしょうか。こう質問すると、「何回も書いて覚える」と答える人がたくさんいます。確かにそうです。1回では覚えられないなら、2回3回と繰り返さないといけません。しかし大切なことは、「何回書いたか」よりも「覚えきる」ことです。ポイントは、「本当に覚えたかどうかを確かめるために、自分で「テスト」をすること。

何回も書いて覚えたりつもりでも、テスト本番までに「本当に覚えているかどうか」を確かめなければテストを受けてしまってもいませんか? 自分でテストをすれば、たとえば「10個のうち7個は覚えただけ、あと3個は覚えきっていない」というように気づくことができ、覚えきっていない単語や漢字の練習をさらにするはずですね。

覚える → 自分でテストする → 覚えていないものはもう一度覚え直す → もう一度自分でテストする → 満点になる → テスト本番を迎える → テストでも満点を取る



## 点数を上げる勉強のコツ②

提出物の3ヶ条を守る

ほとんどの中学校では、「数学や英語のワークをテスト当日に提出する」という練習が出されます。この提出物がとても大切なことを皆さんも知っていると思います。

ここで、まず「提出物の3ヶ条」を確認しておきましょう。

- 提出物は、完成させる → 提出物は完成度が問われる
- 提出物は、メ切を守る → 提出物はメ切を守らないと減点される
- 提出物は、一つ残らずすべて出す → 提出物は一つでも出していないと評価が下がる

この「提出物の3ヶ条」を一つでも守れないと、テストで平均点並みに得点できても、通知表は「2」になってしまうことがあります。仮に80点くらいとれば「4」をもらえそうですが、提出物がきちんと出していないことで「3」止まりになった生徒に出会ったことも少なくありません。

提出物は、各教科の観点別評価の第一項目にある「関心・意欲・態度」の評価に直結します。この評価は、少々テストの点数が低くても、みなさん自身の努力や意志で、高い評価を得られるチャンスがあります。授業態度や提出物に何か問題があると、「関心・意欲・態度」の評価が「B」や「C」になり、「C」の生徒は、まず「2」をつけられてしまいます。「関心・意欲・態度」が「C」のままでは、「3」以上にはなりません。

## 点数を上げる勉強のコツ③

「O×」勉強法

点数を上げるには、「自力で解ける問題」を増やさなければなりません。「自力で解ける問題」を増やすためのテクニックとして、「O×勉強法」について紹介しておきましょう。

まず、問題を解いたら答え合わせをします。答え合わせが終わったら、すべての問題番号にO、△、×のどれかのマークを付けます。

- Oは自力で解ける問題。「This is a pen.」や「1+1=2」並みに間違いないで解ける問題です。
- △は説明してもらったか、解説を読んで、ヒントがあれば解ける問題。計算ミスやスペルミスに自分で気づいた場合も含まれます。
- ×は自力では解けない、解説を読んでもわからない問題。つまりはお手上げなので教えてもらわない問題です。

次にすべきことは、「△問題をテスト当日までにO問題にする」ことです。では、どうすれば△問題をO問題にすることができますか? そう、O問題になるまで、何回も解き直すことです。最低でも2回は解き直さなければいけません。繰り返して、反復がキーワードです。時間と根気が必要ですね。

×問題は自力では解けないわけですから、まずは「わかる」ようになるまで教えてもらわないといけません。ここに塾で先生と一緒に勉強する意味もあるわけです。



## 問題

自力で解けて、いつ解いても正解できる問題。

## 問題

解説を読んだり、ヒントがあったりすれば解ける問題。

## 問題

解説を読んでも解き方がわからない問題。

できる ← できるようにするには わかる ← わかるようになるには わからない

解き直す。反復する。

教えてもらう。質問する。

テスト勉強の段階で、テストで何点取れるか予想できる範囲。これが本当の「実力」。

テスト当日に必ず解けるとは限らない。これをO問題に当日までに格上げしておくことで点数が上がる。

自力で理解できない問題は理解できるまで徹底的に教えてもらい、△問題まで格上げする。

## できるようになるまで、最低「2回」は解き直そう。



まず、間違った問題の番号に△印、×印をつけよう。

## 点数を上げる勉強のコツ④

提出物を毎日の課題にする

「×問題を△問題にする」、「△問題をO問題にする」ことが点数を上げることにつながることが分かったと思います。

次のポイントは、「反復」するにも時間と手間はかかるということです。つまり、「テスト範囲が発表されてから始める」ようでは、充分な「反復」はできません。

提出物を完成させたものの、答え合わせで精一杯で、△問題をO問題にできないまま時間切れ。そしてテスト当日を迎える……。これでは点は伸びるわけがありませんね。

こんなふうに改善しましょう。提出物は必ず出すことが決まっているわけですから、テスト範囲が発表されてから手を付けなくて、普段からコツコツとこなしてい

けばいいのです。つまり、「日々の家庭学習で、提出物をコツコツ終わらせていく」のです。そうすれば、テスト範囲が発表される時には、ほぼ終わっていますよ。

「理解はわかるけど、自分一人では覚えて、どうしても頑張り続けられない」、こういう人はぜひ、塾長や先生に助けってもらってください。

まず、塾の授業の宿題以外で、ワークなどの提出物の積み具合を、授業の度に塾でチェックしてもらいましょう。

家で一人でどうしてもできないのなら、塾での自習の日を作って、決めた曜日、時間に塾に来て復習に取り組んでください。「来たい時に来る」とか「来れる時に来る」ではダメです。その日その日の気分によって任せては習慣にはならないからです。

1点でも2点でも点数を上げ、成績を上げるために、塾は皆さんを全力で応援します。一緒に頑張りましょう。





# はるかなる旅 日本人はどこから来たのか？

皆さん、「日本人はどこから来たのか？」考えたことあるかな？実は約3万年前の日本列島に人類の生活痕跡が見つかったんだ！2万5千年～3万年前の氷河期にはサハリンと北海道がつながっており、マンモスを求めて北方系のユーラシア人が北日本に渡来したんだ。

また、1万年前には東南アジア系の人類が九州から南九州にかけて上陸し、縄文文化を展開していく。さらに縄文時代の晩年から弥生時代にかけて南方系のアジア人が北部九州を中心に上陸し、水田耕作の広がりとともにすでに住んでいた縄文人との混血を何世代も繰り返して、だんだん現代の日本人の顔に近づいてくるんだ。

もちろん、「日本人の顔」にあるように誰もがみんな縄文人が四角く立体的で濃く濃い顔ではなく、弥生人のように顔長で平坦でのっぺりとした顔もあったんだが、その時代の代表の顔の特徴なんだね。

## 日本列島の自然環境と人

旧石器時代の後半から弥生時代の初頭にいたる日本人誕生の物語は、日本列島の自然環境と人々との関わり合いの点で5つの時期に区分される。

### ■I期(3万—1万8000年前)

日本列島の全域で人類の痕跡が明確になるのは約3万年前。最終氷期の中でも最も寒さが厳しかった時期で、列島全体が寒冷・乾燥の大陸性気候に支配されていた。森林も大陸と類似した温帯針葉混交林や亜寒帯針葉樹林が広く展開していた。海面は現在より最大で100m以上も低下し、北海道は大陸と陸続きとなり、対馬・津軽両海峡もほぼ閉ざされて日本海は孤立した。列島にはナウマンゾウ、オオツノジカなどに加え、シベリアからマンモスゾウやヘラジカなども渡来して多様な大型動物相が形成され、人々はこれらの動物の狩猟を主な生活手段としていた。この時期の生態系や人々の生活様式は、基本的にユーラシア大陸東部と一連のものであり、日本列島の独自性は明確ではない。

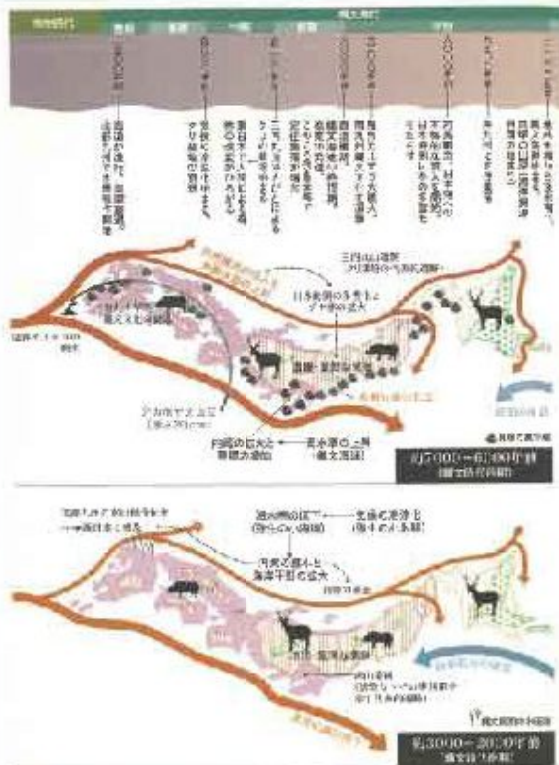


日本人の顔

縄文時代

### ■II期(1万8000年—1万年前)

約1万8000年前、地球環境は急速な温暖化へと転じ、黒潮航路の北上などの影響で降水量も増加して、針葉樹林の衰退と広葉樹林の拡大を促した。海面も急上昇を始めて列島と大陸の分断が進み、道を断たれた大型動物たちは環境変化や人間の狩猟に耐えきれずに姿を消していった。この大変動によって狩猟中心の生活はしだいに行き詰まり、約1万3000年前に温帯な環境に適応した新しい生活様式、すなわち縄文文化が登場する。土器の使用が始まり、広葉樹林の拡大によって増加した木の葉などの植物食が発達していった。狩猟の比重は低下し、獲物もシカやイノシシなどの比較的小型の獣へと移った。列島の生態系や人々の生活が大腔とは異なった独自性を示し始めた転換期と見なすことができる。



日本列島の自然環境と人

縄文時代

### ■III期(1万—6000年前)

1万1000年前の一時的な「華の戻り」を経て、1万年前には温暖化が再開。地球環境は最終氷期から温帯な後氷期へと移行し、西日本に常緑樹林、東日本には温帯常葉広葉樹林が拡大していった。海面の上昇も再開し、列島各地に内海が形成され、人間による海洋資源利用も始まった(貝塚の発見)。8000年前には黒潮の分流である対馬暖流が日本海に大量に流入し始め、海水温の上昇と蒸発量の増加が日本海側に冬季の多雪をもたらした。この時期は、生態系と人類文化の双方において縄文的世界の諸要素が発展した。日本の独自性の形成期と位置付けられよう。温帯な生態系がほかの地域に先駆けて成立した南九州では、9500年前に大型の定住集落が出現するなど、縄文文化の先進地として発展をとげたが、6300年前、鬼界カルデラの大噴火の直撃を受けて衰退した。

### ■IV期(6000—4000年前)

約6000年前、列島の気候は最温暖期を迎え、列島は変動の時代から安定の時代へと大きく転換する。縄文海進もピークに達して安定し、内湾沿岸には干潟が拡大して、漁業の発達を促した。この時期には縄文文化を特徴づける各要素がほぼ揃うとともに、定住集落が広く見られるようになる。定住化と人口増加の結果、人間の活動が周辺環境に及ぼす影響は拡大し、かつ長年にわたって蓄積されるようになった。集落周辺の森林は人手の加わった二次林へと変換し、やがて人々はそれを生活物資の供給地として維持管理する術を身につけていった。その頂点といえるのが三内丸山のクリ栽培である。こうした森林管理は、内湾や程度の違いをほらみつつ、東日本へ広く行われていた可能性が高い。この時期は、人と自然の絶え間なき相互作用のもと、パランスのとれた生態系が形成されていた時代として理解できそうである。

### ■V期(4000—2000年前)

約4000年前、列島の気候は温帯な安定期から冷帯な不安定期へと移行した。三内丸山のクリ林などの人為的な生態系は衰退し、代わってトチの実の利用が各地で活発化した。これは、自然に対する人間の影響力の低下と自然林の回復を示すものとも考えられる。わずかながら海面の低下も進み、内湾や干潟の縮小によって貝塚らしだいに衰退した。やがて縄文晩期後半に北部九州へと伝わった水田耕作は、弥生時代に入ると各地に普及し、稲作農耕社会への転換が一気に進んでいった。かくして日本列島は絶え間なき人口増加、耕地の開拓、燃料消費の増加、都城の建設などによる大規模な環境変化の時代を迎えることになるのである。

## ちのわ

このコーナーでは、様々なクイズ・なぞなぞ等を出題します。正解者の中から抽選で、3名の方に図書カード1000円分をさし上げます。熟読の先にある応募用紙(アンケート用紙)に答えを記入して、熟読に提出してFAXしてもらってください。さあ、いろいろ情報を盛りながら、みんなで楽しくレッツチャレンジ!

右の数字のならばには、あるルールがあります。さて、?には、どんな数字が入るでしょうか?

